

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人小林健治の上告趣意第一点について。

所論の点については、当裁判所の判例（昭和四二年（あ）第二〇七号同年六月九日第二小法廷判決・裁判集刑事一六三号五一頁）が存していたのであるから、所論引用の判例（東京高裁昭和四六年（う）第五三〇号同年七月五日判決・高裁刑集二四巻三号四四一頁）は、刑訴法四〇五条三号の判例にあらず、判例違反の主張は、不適法である。

なお、無免許運転と酒酔い運転の各罪は、観念的競合の関係にあるものと解するのが相当であるから（当裁判所大法廷昭和四六年（あ）第一五九〇号同四九年五月二九日判決参照）、原判決は、法令に違反しているものというべきであるが、本件事案のもとにおいては、これを破棄しなくても、著しく正義に反するものとは認められない。

同第二点について。

所論は、量刑不当の主張であつて、適法な上告理由にあたらない。

よつて、同法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四九年六月二〇日

最高裁判所第三小法廷

| | | | | |
|--------|---|---|---|---|
| 裁判長裁判官 | 高 | 辻 | 正 | 己 |
| 裁判官 | 関 | 根 | 小 | 郷 |
| 裁判官 | 天 | 野 | 武 | 一 |
| 裁判官 | 坂 | 本 | 吉 | 勝 |

裁判官

江 里 口

清

雄